

武雄市議会だより

栄八通信

第 48 号

14710 月末発行



武雄市議会議員
宮本 栄八
TEL・FAX 23-0750
携帯 090-5083-0793

大転換歓迎！

**市立武雄保育所
建替え
移転1.2km内
民間委譲
の方針が明言された。**

12月議会、他議員の一般質問の中で、武雄保育所の耐震やひび割れなど経年劣化等について質問があった。（もちろん、私がこれまで、懲罰問題などになりながらも、言うて来た事と主旨の質問。）
それに対し、市長や部長の回答と

イラストマスタープランでは不明
各町まちづくり計画が必要

新武雄市になって6年になる。山内町に通信を配布する時、合併前に子供を遊ばせにきていた中央公園に立ち寄るが、樹木等の管理はされているが、遊具など色あせて活気なく、寂しくさえる。

そこで、山内支所のまちづくり課に電話して、今後の整備やリフォーム計画を聞くと、そんな計画もなく、予算もないと言う。道路や市営住宅の補修が中心で、それこそ、夫婦岩の下が危険でやっと交換したとのこと。

確かに、支所長も500万円の決裁権はもっているが、自由な金を持つていない。

そこで、この問題の担当課は企画課とのこと、市の長期計画はマスタープランであると言う。

しかし、マスタープランは、絵を数十枚ボランティアに描きたい形で書いてもらいカレンダーにして市民に配布された。それを探して見ると、絵の下に水洗化率など断片的目標が1.2行書かれていて、指針とらない。

これは、山内町だけでなく、北方町においても、合併後すぐ、1億円整備した道路の北方中央線も優良住宅地整備の前提のことだと言っている。

武雄町においても、北部の区画整理事業が進んでいるだけで、武雄町のまちづくり計画ではない。

それは、マスタープランが、ああ言う作り方なので仕方がない。

そこで、市内各町のまちづくり計画を作るべきと市長に提案。

市長は、「心配無用」との答えだったが、やはり、大まかでも良いので、計画が必要と思う。

委譲の方針で、その理由は、同じ仕事をやっても、公務員と民間では賃金の差があるので、民間が効率的との指摘で、これは、今回の新方針。ともかく、しばらく動かないと思われた。保育所建替えが急に進むことになったのは、大歓迎である。

一方、以前の計画で1園だけを公立とした方針の理由は、市内園の拠点機能や病後時や休日また障がい児保育など、民間では取り組みにくく、費用負担が多くなるとの配慮から、公的責任で行なう考えからである。

私自身は、民間でも良いと思っているが、その前提として、病後時保

市長新年抱負

「庁舎問題決断」

9月・12月議会で急浮上して来た本庁舎建替え話だが、市長は、新年名刺交換会の年頭のあいさつとして、今年の市の最大の課題は本庁舎改築決断と明言された。

①新幹線の買収で駐車場が減少
②合併特例債の期限がH27年まで
③耐震診断で、2FがISO・29が主な理由であった。

まず、移転、現地建替え、耐震補強等、まず、市が3案程度を出し、その後、議会などに意見を求めることの事だった。

今後の動きや私の提案は、後日記述する。一方、私は、市長の新年抱負として、25億円の工業団地売却を第一に上げて欲しかった。

県立高校再編

教育委員会声を上げて！

数年前に、県教委は、中高一貫校の導入と生徒数の減を理由として、県立高校の再編（統廃合）を行った。

私が思うに、いや、客観的に見ても、武雄市には、不利と言うか、選択肢が狭められたと思う。

大きな問題点が2点ある。

①中高一貫校と普通高との選択
県内の4中高一貫校の状況は、鳥栖高には、三養基・神崎致遠館には、佐賀西・佐賀東・佐賀北唐津東には、唐津西・厳木と近くに普通高校があるが、武雄高校には旧青陵高校が統廃し、一貫校と普通校の選択肢が減少し、県内の3地区より教育選択環境は低下していると思われる。

②西部学区内のアンバランス問題
また、西部学区内も交通的に、JR佐世保線には、一貫校の武高だけで、一方、JR長崎線には、白石・鹿島・多良の普通高が3校もあり、定員割れもあるなど不均衡。

ただ、この2課題の解決策は、一つで、長崎線上の3普通高校を2校に統合し、佐世保線に、普通高一校を作れば解決する。

一方、佐賀県教育委員会は昨年、県立高校の配置等の見直しをする検討委員会を発足させた。旧武雄市の時代から、西部学区でのアンバランスや県内市は殆んど、普通高と実業高校の2校が所在するなど他市並の県立校立地を

震災ガレキ受け入れ断念！先送り？

私がこの話を知ったのは、議会事務局からの連絡ではなく、夕方テレビ報道であった。

直ぐに市民から問い合わせの電話があった。「九州初の受け入れとか、売名目的ではないかの意見。」

私は、それに対して、そうかも知れないが、ガレキ受け入れ自体は、悪い事ではないので、ただ、いろんな市民負担を覚悟の上の決断なら反対することは無いと答えた。

ただ、その時言ったのは、唯一クリアにする条件はクリーンセンターの地元、朝日町の住民同意が必要と答え、それができれば、広域圏で反対する首長がいらないのでないかと答えた。現在でもそう思っている。

ただ、心配だったのは、市長の考える独自の基準と言うのが、1ミリシーベルト以下なのか、2ヶ所で、検査すると言うのは、どこ

で、どんな形にするのかが不明。市長が、そこを明確にせず、発表したことが、反対や混乱を招き、脅迫の電話があったとのこと、受け入れ断念になったと思う。

そのため、12月議会では、この質問を取り下げていたが、市長は、佐賀新聞に出ていた断念でなく、先送りであることやガレキは、原発からの放射能が0の物のみの受け入れとの説明だった。それなら、独自の基準などと言わず、0であることを、その測定方法を明確にすれば混乱は避けられたと思う。

また、今回一番いけないのが、電話でのイベント妨害や市職員への危害の恫喝に負けて、方針を変えたことで、ちゃんと法的対応をすべきだ。

もし、市長の先送りが本気なら、今からでも、まず朝日町民への説明から。

望む要望に対し、歴代教育長は、同感の意を示されていて、二次再編がある時には、県教委に意向を伝えたいとの主旨の答弁があった。

まさに、その再編論議があることを知り、12月議会でも、武雄市教育委員会が、それに対し、問題解決の為の提案をして欲しいと質問した。しかし、教育長は、デリケートな問題なので、提案などしないとの主旨の回答でびく。

教育長は何か深い考えがあつて表面では、そう言いながら、別の所で努力しようとの考えかも？。

ただ、第一次の再編で、統合が検討された、伊万里農林や牛津高が統合されなかったのは、地域を挙げて、必要性を論理的に正々堂々と訴えての勝利である。

また、それは教育委員会だけでなく、首長や行政も一体だった。

国保の値上げ間近か

市費投入方針は歓迎！

12月議会で、国保の値上げの方針が示された。当然、加入者の医療費が増大すれば、負担も増大するのはやむを得ない。

今回、いつもの値上げ方針と違う、画期的な方針が出されたが、それは、一般会計からの一部赤字補填である。共産議員や私も含め、数人の議員は以前から主張。しかし、社会保険加入者等との不公平との考え方もあり、全国的に事例は少なかった。

以前は、国保の主な対象者が、自営業者、社保が会社員と大別。しかし、現在のデフレやリストラで、失業者や非正規社員は、社保から国保の対象者に切り替えることや、会社を定年退職で国保に変わる団塊の世代も多いなど、国保対象者が、社会的理由で変化した。見方によっては、国保が弱者救済の度合いは良い。

H22年度の未収金は、約1億円で、予算総額約62億円の約1.6%。私は、旧武雄市時代には、市費投入の財源には、市たばこ税でとの提案もしていたが、H22年度は約3億4千万円である。その約1/3程度の支出で良い。

朝日小児童クラブ新たな動き

前回、朝日小の児童クラブが人員増加で分離を計画している事と教室利用案は、先の御船小の2クラブ新設と、あまりにも差がありその理由が、宝くじの補助金の影響で変わっているのは、利用者目線でないことなどを伝えた。

その後、出された案は、教室ではなく、玄関近くの「くらしの館」という、古い農機具など朝日の民俗資料的なものを展示してある。そこを、2分割して新クラブを作る案で、一歩前進と喜んだ。

後日、現地を確認に行くと、そこを、中央で区切った場合、向って左側の室には窓がなく、外光が入らない事が分った。説明では、内光はスリガラスで、また昼も蛍光灯を点けることについて。

併特例債も使えるらしく、市費は約335万円と御船小より少ない。だから、場所さえあれば、新築可能ではないか。

東日本大震災の影響を直接受けた

たけお競輪事業の今と将来

たけお競輪は、収入面で見れば、年1回の記念競輪（GⅢ）を全国の競輪場で売ってもらい、大半の70億円を売り上げ、残りの通常開催で約40億円を売る。神社の正月と他月の様な差である。

全国競輪場の約50場で、年1回の開設記念レースがあり、開催時期を分散してあるが、武雄市は、4月頃の開催が多く、年度早々に、記念競輪の売り上げが確定する。近年は、80億円を超える時もあり、4月の時点で、年度末の決算をまた

ず、一応の安心が出来る時も。ところで、H23年度は、記念の替りに、ランク上の、共同通信社杯（GⅡ）の開催の順番になっていた。

4月開催で、約100億円を見込み、残りの通常開催で約40億円の140億円を見込んでいた。

しかし、東日本大震災が、3月11日に発生し、それから間もなくの開催となり、結果約67億円と激減、私自身これは大変な事になったと思ったが、考え方を換えれば、今年儲けを期待したGⅡの共同通信社杯で

やはり違った！（医療費から見る）

旧武雄市民病院と新武雄病院の方向性

昨年の他議員の一般質問の資料として近隣病院の月別の医療費のグラフが出された。

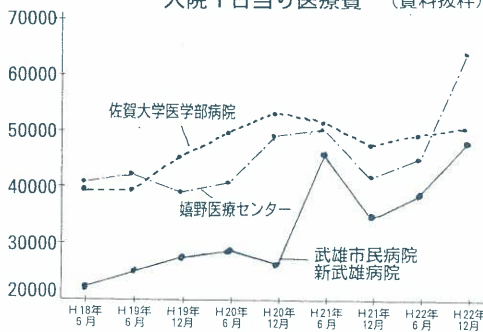
それを見て、やはり、新武雄病院は、旧市民病院の医療内容を引き継ぐとの説明だったが、グラフから見れば、私が心配したとうり質は変わっていると思った。

市民病院の時は、1日当りの入院費が23万円。池友会系に運営が変ったH21年以降45万円が中心となっていて、それは、三次医療（高度）の佐大病院や嬉野医療センターの金額と近く、高度で、入院日数の少ない病院と見れる。だから武雄で、高度救急などを望む市民にとっては良かったとの見方もあると思う。

ただ、私は、14日程度で退院となる、三次医療は400床以上ある佐大や嬉野のセンターで、その後の数ヶ月に及ぶ長期の入退院など家族の負担を少なくする二次医療の病院として市民病院が近くにある方が良く思っていた。

市長は、一次から三次まで、24

入院1日当り医療費（資料抜粋）



「いのしし捕獲員」設置

正式には、鳥獣被害対策実施員という。報酬月額13万2千円。3名を非常勤特別職として2月より雇用する。（役所に出勤は無い）これで、市内のいのししも大いに減少するのではと期待した。

一方、現在は、1頭捕獲につき5千円を支払っていて、80人程度の登録者がいて、特に捕獲数が200頭台と多い3人をいのしし捕獲員に採用すると言う。それなら、全体の捕獲数は変わらない。ただ、財政的には、捕獲員の報酬については、80%の交付税が来るので年間3人分の約450万円の80%は助かる。

今は、県補助金200万円に市費を足して払っていた。それが捕獲員制度で軽減された為か、H23年度は1頭7000円に上げる。それが、捕獲増に繋がる事を期待。

一方、市民に賛否のあるいのししパトロールについても、見直しを願う。

東日本大震災に対する、私なりの支援

私の1年間は、議会→通信作成→配付→議案研究の繰り返しで、その間に行政視察が2回あり、その時に、九州を出る状況。

しかも、通信配付日数が足りないの、地区によっては、2回分を同時に配付するなど、目標も十分にこなしていない。

そんな事から、東北への作業ボランティアには、参加に踏み出せていない。（金銭面もあるが）

たぶん多くの市民の方も、助けた気持ちはあるが、それができないことに、無念の思いでは。

私は、少しでも支援できないかと、コンビニのレジ横の募金箱に、つり銭を入れる事で支援する。金額は、復興増税額と同額の500円を目標として入っていた。しかし、11月頃になって、募金箱を